

新しい年の始まりに

川島 和子



2020年は、津山・きびの会にとって、開設15年の記念の年でした。この間私たちは、先駆的な活動を通して社会の変革を目指してきました。しかし、現実の家族の苦悩や、本人の生きづらさは、ほとんど変化なく、活動の中心となる会員の高齢化が進み8050問題という社会現象の中に身を置く苦しい現状がありました。

そんな中で一筋の光が見えてきました。美作大学の学生さんが、ひきこもりを研究テーマにしてくださったこと、ひきこもりや、精神的な病で生きづらさを体験している若者が参加しピア・サポーターとして活動してくださっていることです。また、制度の大きな動きとして、6月5日地域共生社会の実現に向け、市町村の相談活動体制を強化する社会福祉法などの一括改正法が成立したことです。施行は、2021年4月1日からです。

新しい年の始まりは、ここからです。若い力とともに、隔たりのない助け合える社会を目指し、生きる喜びを誰もが享受できる活動の輪を広げ、思いを実現していきましょう。まず、この思いを行政に届けることです。

3つの支援の柱は

- ① 相談支援 断らない相談支援体制を作るり継続的に伴走型の支援を望みます
- ② 参加支援 (つながりや参加の支援) 本人や、家族の様々な困りごとに対応する社会参画・つながりや参加の支援を強化していきます。
- ③ 地域づくりに向けた支援 断らない相談支援や参加支援を強化していくために、当事者団体や、家族会も参加して相談活動、支援活動を担っていきます。

この事業は、市町村の努力義務が、背景にあります。市や県に私たちは、声を上げることが必要です。現在市に要望を出しています。県にも要望を求めていく必要があります。この年を大切に、今までの願いを実現していく記念の年にしていきましょう。すべての皆様に感謝です。

家族教室に参加して



【感想 その1】

1月30日に「家族教室」で美作大学の菅原先生の統合失調症についてのお話を拝聴しました。病気の原因、経過、治療の作用や副作用、家族が出来ること等、多岐にわたってお話を伺って、病気に対する知識や親の心構え、対応の一端を考える良い機会をいただきました。

ひきこもりや精神状態がおかしくなると、家族はどのように接したら良いか何をしたらよいのか混乱してしまいますが、一番戸惑うのは本人であり、不安ややり場のない気持ちをどのように解決したらよいのか悩んでいるのでしょう。親の方も未来を心配するあまり、何が悪くてそのようになったのか？と自分を責めて毎日を暗い気持ちで悶々と過ごしがちです。

出席された親御さんからの話を聞くと悩んでいるのは自分だけではないのだと気づかされ、病院での治療を受けることはもちろん、親の方は本人を信じて広い気持ちで見守ることが必要なのだと思います。きびの会を知る機会に恵まれ、このような講義を受けられたことで、まず親が毎日を明るく前向きに過ごすことで、よりよい結果になるように願っています。

(てまりのママ)

【感想 その2】

家族教室に参加して、つくづく思うことは、ひきこもりがちの息子の状態を近所の人になかなか話しづらかったのですが、家族会の場では、ざっくばらんに話し合え、ほっとするのでしょうかその夜はぐっすり寝れました。

翌朝家族一緒の食事時「お母、冬用タイヤに替えようか」と言ってくれました。「そうなあ、変えてくれるか」というと「ええよ」と笑顔で行ってくれたのが今でも忘れられません。後でこのことを夫に言うと「息子は、息子で、いつも親の表情を見ているんじゃないか、日々のコミュニケーションが何より大切じゃろうな」とお互いに反省の念に駆られました。

世情も厳しさを増す中で「ひきこもり」の人も増えているのではないかと思います。親としては本人にしかわからない「つらさ、いたみ・・・」を持つ息子に寄り添い「焦らず、無理せず心の病は必ず克服できる」を合言葉に仲間の皆さんと一緒に笑顔で一歩一歩、あゆんで行ってやりたいと思っています。(H. K)